

1. 天台宗 2. 真言宗 3. 禅宗 4. 淨土真宗

1. 促成栽培 2. 抑制栽培 3. 近郊農業 4. 地產地消

1. 五カ年計画 2. ニューディール政策 3. 自由貿易政策 4. ブロック経済

1. 夏には太平洋側から吹き込む季節風の影響を強く受けて降水量が増えるが、冬は晴天が続くため、暖房器具の使用は少ない。
2. 冬の積雪が多いため、古くから家々の軒先を延長した「雁木（がんぎ）」と呼ばれる通路などが作られてきた。
3. 標高が高く、山々に囲まれた盆地であるため、夏と冬の気温差が激しく、年間を通して降水量は非常に少ない。
4. 一年を通して降水量が少なく、梅雨や台風による降水の影響もほとんど受けないため、大規模な溜池が点在する。

1. 南東の季節風と台風の影響 2. シベリア高気圧と梅雨前線の停滞 3. 対馬海流による湿った空気の流入 4. 北西の季節風と低気圧の影響

1. 内陸の盆地のような地形で熱がこもりやすいため、夏場に極端な高温となるヒートアイランド現象が起きやすい。	2. 山の麓に広がる扇状地のような地形であり、水はけが良すぎるために生活用水の確保が困難になりやすい。	3. 標高が低いため、台風による高潮や大雨の際に河川が氾濫すると、広範囲で浸水被害が発生しやすい。	4. 標高が高く急峻な斜面が多いため、地震の際に大規模な土砂崩れや山崩れが発生する危険性が非常に高い。
--	---	---	---

1. 上昇気流 2. 偏西風 3. 貿易風 4. 季節風（モンスーン）

1. 請求權 2. 平等權 3. 社會權 4. 參政權

1. 製品の耐久性が高く、長期間の使用が可能であることを示すため

1. スタグフレーション 2. デフレスパイラル 3. 円安による物価高 4. インフレーション

1. 特定の対象者が生活の中で直面する物理的な困難を、設備改修などによって後から除去すること	2. 障害の有無や年齢の差に関わらず、最初から誰もが同じように利用できるように設計すること	3. 社会的弱者が不利益を被らないよう、所得の再分配を行い経済的な格差を是正すること	4. 特定の施設だけでなく、社会全体の意識を変えるために教育課程にボランティア活動を組み込むこと
--	---	--	--

1. 個人の経済的利益のみを追求するため、いかなる理由があっても制限されることはない
2. 経済活動の自由は新しい人権の一種であるため、基本的人権の中には含まれていない
3. 全ての国民に対して平等な収入を国が保障する権利であるため、個人の努力は関係しない
4. 社会全体の利益や安全を守る「公共の福祉」のために、法律による一定の制限を受けることがある

1. アメリカ合衆国 2. フランス 3. イギリス 4. オランダ

1. 新築住宅の供給が不足しているため、倒壊した空き家の跡地に新しい避難所を建設することが法律で禁じられているから。
2. 空き家の総数が減少している一方で、一軒あたりの倒壊時の破片が広範囲に飛散する構造になっているから。
3. 1980年以前に建てられた家屋が多く含まれており、現在の耐震基準を満たしていないために倒壊する恐れがあるから。
4. 1980年以降の新しい耐震基準で作られた家屋は、空き家になると強度が急激に低下し、自然に崩落する性質があるから。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 禅宗	鎌倉時代に日本に伝わった禅宗は、室町時代に入ると幕府の保護を受けて発展しました。特に三代将軍の足利義満は禅宗を深く信仰し、自らの像を禅寺に安置させるなど、武家政権の権威と宗教勢力を強く結びつけました。これにより、禅宗は政治や外交の面でも重要な役割を果たすようになりました。
問2	答え 3 近郊農業	茨城県は関東平野に位置し、巨大な消費地である東京都心に近いという地理的優位性を持っています。このように、都市の周辺で新鮮な野菜などを生産し、輸送コストを抑えて供給する農業は「近郊農業」と呼ばれます。これにより、消費者は鮮度の高い農産物を比較的安価に購入することができ、生産者は輸送時間を短縮できるというメリットがあります。
問3	答え 4 ブロック経済	イギリスやフランスなどの「持てる国」は、排他的な経済圏（ブロック）を作ることで自国の産業を保護しようとしていました。これに対し、植民地が少なく資源の乏しいドイツ、イタリア、日本などは深刻な経済難に陥り、領土拡大を目指して軍事的な進出を強めることとなり、国際的な対立が深まりました。
問4	答え 2 冬の積雪が多いため、古くから家々の軒先を延長した「雁木（がんぎ）」と呼ばれる通路などが作られてきた。	冬季の降水量が際立って多いというデータは、北西の季節風による積雪を示しています。この「日本海側の気候」に属する地域では、一月の平均気温も低く、豪雪から生活を守るための工夫が発達しました。新潟県などで見られる「雁木」は、積雪時でも歩行者が通行できるように軒先を貸し出した通路であり、この気候区特有の景観です。また、農閑期の冬の仕事として、織物などの伝統工芸が発達した地域も多くあります。
問5	答え 1 南東の季節風と台風の影響	日本の夏は、太平洋高気圧から吹き出す湿った南東の季節風が流れ込むため、太平洋側で雨が多くなります。また、夏から秋にかけては台風が接近・上陸しやすいため、降水量が年間で最も多い時期となります。対して、北西の季節風は冬に日本海側で雪を降らせる要因となります。
問6	答え 3 標高が低いため、台風による高潮や大雨の際に河川が氾濫すると、広範囲で浸水被害が発生しやすい。	河口付近に位置する平坦な低地は、河川が運んできた土砂が堆積して形成されています。こうした地域は標高が極めて低く、海面に近い「ゼロメートル地帯」となることもあります。そのため、大雨による河川の増水や、台風に伴う高潮の影響を直接受けやすく、一度浸水すると水が引きにくいという防災上の弱点を持っています。
問7	答え 2 偏西風	地球の中緯度地域の上空では、一年中一定の方向に強い風が吹いています。この風は西から東へと流れており、日本付近の天気は西から東へと移り変わる主な要因となっています。低緯度（赤道付近）で吹く貿易風や、季節によって吹く向きが変わる季節風とは区別する必要があります。
問8	答え 3 社会権	資本主義経済が発展すると、富を持つ者と持たざる者の格差が広がり、貧困や失業、劣悪な労働条件などが深刻な社会問題となりました。これらを解決するために、国家が積極的に国民の生活に介入し、健康で文化的な生活を保障するという「社会権」の考え方が生まれました。これは自由権に代わって「国家による自由」とも呼ばれます。
問9	答え 2 廃棄物を資源として回収し、循環型社会の形成を促進するため	環境ラベルは、消費者が廃棄する際に「どの素材として再資源化できるか」を識別しやすくするために付けられています。消費者が正しく分別することで、廃棄物が再び原料として活用されるリサイクルの流れが成立し、資源が循環する社会（循環型社会）の実現に繋がります。
問10	答え 2 デフレスパイラル	物価が下がり続けるデフレーションの状態において、企業の収益悪化、家計の所得減少、消費の冷え込みが連鎖的に起こる現象です。この負の連鎖がらせん状に景気を悪化させることから「スパイラル（らせん）」と呼ばれます。物価が下がることは一見すると消費者に有利に思えますが、社会全体の経済活動を停滞させる要因となります。
問11	答え 1 特定の対象者が生活の中で直面する物理的な困難を、設備改修などによって後から除去すること	バリアフリーは、すでに存在する段差や狭い通路といった「障壁」に注目し、それを特定の対象者（車いす利用者や高齢者など）が使いやすいように手直しするという特徴があります。これに対し、最初からすべての人を対象に設計する考え方はユニバーサルデザインと呼ばれます。どちらも共生社会を目指す重要な概念ですが、その手法と対象範囲に違いがあります。
問12	答え 4 社会全体の利益や安全を守る「公共の福祉」のために、法律による一定の制限を受けることがある	経済活動は社会の中で他者と深く関わりながら行われるため、国民の生命や安全、社会的な弱者の保護といった「公共の福祉」の観点から、精神の自由よりも比較的広い範囲で法律による規制が認められています。例えば、資格制度による職業の制限や、公害を防ぐための工場の立地規制などがその具体例です。
問13	答え 3 イギリス	幕末の日本において、最大の貿易相手国はイギリスでした。イギリスは十八世紀後半から世界に先駆けて産業革命を達成し、圧倒的な工業力を背景に安価な綿製品などを世界中に輸出していました。日本との貿易においても、その工業力を背景に大きなシェアを占めていました。
問14	答え 3 1980年以前に建てられた家屋が多く含まれており、現在の耐震基準を満たしていないために倒壊する恐れがあるから。	日本の住宅統計では、1980年以前に建築された古い家屋の割合が一定数存在しており、これらは現在の厳しい耐震基準が導入される前の建物です。管理不全のまま放置された空き家は老朽化が進みやすく、地震の際に倒壊して道路を塞いだり、近隣住民に被害を及ぼしたりするリスクが高まるため、防災上の大きな課題となっています。